

金融学習の輪を広げるために

埼玉県金融広報委員会

電話 〇四八-二六一-〇九九五

私ども埼玉県金融広報委員会は埼玉県消費生活支援センターに事務局があることを生かし、県と連携しながら金融経済学習の支援や金融経済情報の提供などの活動を行っています。

現在五つある金融学習グループは、金融広報アドバイザーの支援を受けながら、「家計を取り巻く社会環境の変化について」、「金融商品の基礎知識」、「年金や保険について」などの生活設計に関する学習会をほぼ月一回開いています。メンバーには学習したことを自らの生活に生かすとともに、地域のリーダーとなり、学習会の成果を、他の方々へ波及させることを期待しています。

金融教育に関しては、中学校二校を金銭教育研究校に、高等学校一校を金融教育研究校に



指定しており、各校とも熱心に実践活動に取り組んでいただいております。八月に開催した金銭教育協議会では、家庭科や社会科などの各教科科目代表の先

生方に集まっていたいただき、意見交換を行うとともに研究校からは事例発表をしていただきました。

また、当委員会では、「おこづかいから学ぶ金銭感覚」などの金銭教育や生活設計等をテーマとした各種の講座に金融広報アドバイザーを派遣しております。さて、何か所からも借金を抱え返済困難に陥っている多重債務者は、全国に二百万人以上いると推定され、多重債務問題解決への取り組みは喫緊の課題です。

そこで、当委員会では、この問題の未然防止と解決のための知識普及啓発活動に力を注いでいます。

五月の消費者月間の記念講演会において、この問題をテーマとして取り上げ、その現状と対処法をお示ししました。講師はこの問題の第一人者である宇都宮健児弁護士にお願いしました。多重債務問題の実態に驚いた受講者が多く、この問題はまだまだ一般の人たちには知れ渡っていない

ないことを感じました。

十月には、「借金の悩みは必ず解決できる」を演題に再度、宇都宮弁護士にお願いし、多重債務問題講演会を開催いたしました。現実に多重債務問題に陥っている方々も講演会に多数参加され、活発な質疑も行われ、予定時間を三十分オーバーする盛況ぶりでした。アンケートには、「気持ちが悪くなりました」「自分の知らないことが多く助かりました」「(早速)弁護士に相談したいと思います」「自殺しようと思いましたがもう一度考え直してみます」などの記載があり、この問題の深刻さが伺えました。法定金利を超えて支払う必要のない多額の利息金がお支払われ続けている現状を断ち切るためにも、多重債務問題に関する講座・講習の実施や街頭キャンペーン等、啓発情報の提供をさらに進めていきたいと思っております。

暮らしに役立つ情報をお届けしています

奈良県金融広報委員会

電話 〇七四二-二七七八七〇四

当委員会では、広く県民に役立つ金融経済情報をお届けしています。その中から、大人向けの「くらしとおかね講演会」、小学生親子対象の「夏休みマネー教室」の二つをご紹介します。

くらしとおかね講演会

暮らしに身近な金融経済情報を、分かりやすくお伝えすることをモットーにしています。

講師は多彩な顔ぶれで、毎回熱心な受講者でいっぱいです。

多重債務問題の宇都宮健児弁護士、消費者問題に明るい村千鶴子弁護士、消費者トラブル関係にも詳しい住田裕子弁護士、生活経済ジャーナリストの高橋伸子氏、CFPの畠中雅子氏、経済アナリストの森永卓郎氏、ベス



トセラ作家の辰巳渚氏、細野真宏氏と、時の人を講師に迎えています。

講演会の会場と内容にもよりますが、託児ルームを設けて、乳幼児を育てる若い女性や働くお母さん、二十才代〜三十才代の参加を促しました。

ふとしたことがきっかけで、多重債務へ転落していく人々、身近な消費者トラブルの対応の仕方、生活設計、節約のノウハウ、たくましく生きるための

お金の生かし方や、生活の知恵や工夫についての話、何万アイテムもの品物に日々囲まれた生活でも満足できず、また買ってしまうことを繰り返す生活への危惧と脱却の方法などを、講演会では、さまざまに切り口で、講師に熱く語っていただきました。

金融経済情報という、堅苦しいイメージがありますが、生

活に密着した情報をお伝えしているのが、講演会名称は、「くらしとおかね講演会」と平仮名で親しみやすいネーミングにしています。老若男女、皆さまに聴いていただけるような、情報提供を目指しています。

夏休み親子マネー教室

地元の金融機関の協力を得て、開催しており、本年度で二年目です。

夏休みの三日間連続で、親子で考え、学ぶ教室は、楽しみながらお金や金融のさまざまな仕組みが理解できると、好評をいただいております。

教室での講義のほか、銀行の仕事の説明や、模擬券を数えたり、貸金庫を見学するなど、参加の小学生にとって貴重な体験ができました。

顧客満足度？ 向上を目指して

長野県 金融広報アドバイザー
宮原 則子



家計管理のポイントから家庭や学校における金融教育の在り方まで、生徒・先生・成人一般の皆さまを対象に金融広報活動を始めて十年が

たちました。私が常に心掛けてきた

ことは、金融広報委員会の活動趣旨と、私の話を聴いて下さる方々のご期待を、いかに両立させるかという点です。その意味で、体験談・実践例の持つ説得力の高さを痛感しています。

主婦を対象に家計管理の重要性をお話しする場合には、日々のやりくりに追われる自分自身の時間や資源を節約する工夫を紹介し、合理的な生活態度こそがお金の節約にもつながる、ということをお話していただいています。

また、私は昨秋から「法テラス」の相談員をしています。相談者の生々しい訴えを耳にするたびに、お金の管理することの大切さ、契約知識や金銭感覚を身に付けることの必要性を痛感させられ、青少年にしっかりと伝えるすべを考えなければいけないとの思いを新たにしています。

「お金をどう使うか」は、「どのよう
な人生を送るか」とまさに同義であり、金融広報アドバイザーの仕事は人間教育にもつながる重要な役割だと思います。それだけに、日々新しい知識の習得と幅広い経験を重ねながら、今後も工夫を絶やさず、顧客満足度の向上に取り組んでいきたいと考えています。

金融広報アドバイザー紹介

「手品師の箱」でお金教育

熊本県 金融広報アドバイザー
椿 久美子



子どもたちの興味関心を持続させるのは至難の業。そこで現金の1円玉や1万円札、スナック菓子などいろいろな道具を手品師のように箱から取り出しては「このスナック菓子は十年後はどうなる？ お金は十年後は使える？」と発問を繰り返して、普段のお金の使い方やお金の大切さについて考えてもらっています。

感想や反応を喜びとして十年目へ「これからは無駄使いをやめよう」と思います。「お札の千円は軽いけど1円玉にするのと重かった」など、これまでたくさん感想文が子どもたちから寄せられました。一通一通に目を通しながら、お金の大切さに気付いてくれたことへの喜びと同時に「その気持ちを忘れないでね」と願わずにいられます。

将来、子どもたちがお金の使い方で迷ったときに「お金の先生」の授業を思い出してもらえたら幸いです。そのために、これからもユニークで楽しい工夫をしながら活動を続けていこうと思います。

この活動に携わることで私自身も成長させていただいていることに感謝をしながら、来年十年目を迎える所存です。

子どもたちに参加型の金銭教育
お金は便利な道具であり、使い方が次第では厄介な存在にもなります。次代を担う子どもたちにはお金の面で自立した大人になってほしい。そうした切なる思い・目的で私は「お金の先生」と称して、小学校の学級行事や六年生の家庭科の授業に赴き金銭教育の参加型学習を行っています。

読者のおたよりコーナー

読者の皆さまから お送りいただいたおたよりをご紹介します。 ありがとうございます。

●「巻頭特集」のありがどうの世界は、とてもよい企画でした。三人の専門家の方からそれぞれ提言がありました。が、共通することは気持ちのよい「ありがとう」を生活の中で意識して声に出していきましょうということですね。

●「巻頭特集」のありがどうの世界を読んで、「ありがとう」の言葉の力と大切さを改めて感じました。早速、家族に「ありがとう」を言いたいです。

●「そこが知りたい！ 暮らしの金融知識」は大変役立つ情報でした。数年前から貯蓄を分散させ、投資信託も始めましたが、今ひとつ金利との関連性や安全性について理解できていませんでしたので、とてもためになりました。「趣味の散歩道」などほっとするテーマもあり、楽しく読むことができました。

●「江戸のくらしと金銭観」を楽しく読んでいます。「知るぽると最前線」では、参加者の生の声が聞きたかったです。

(奈良県・北野さん)

●「金融教育の現場レポート」のおみやげ買い物体験で金融について勉強する試みは、とても面白そうで、私も受けてみたいと思いました。私が通う中学校でも、ぜひ実施してほしいです。

●「将来へのまなざし」を読んで、励みになりました。私も何かしら打ち込めるものを模索したくなりました。

●全国で活躍されている金融広報アドバイザーの紹介コーナーを面白く読んでいます。

●表紙の構成がよく、気持ちがあがります。またこの広報誌全体にも親しみを感じます。次の号が届くのが待ち遠しいです。

●いろいろな知識を身に付けたいので、もう少しページを増やしてほしいです。また、今後、投資信託のリスクについての情報があればうれしいです。

(宮崎県・ちよさん)

おたより募集します

『くらし塾 きんゆう塾』では、皆さまからのおたよりを募集します。次の事項をご記入の上、クイズにお答えいただいた上で、下記宛先までお送りください。平成20年2月29日までにご意見を下さった方の中から、抽選で10名の方に、「日めくりカレンダー」をプレゼントいたします。

また、いただいたおたよりを本誌に掲載させていただいた方には、「図書カード」をプレゼントいたします。

◆記入していただきたいこと

1. 今号で面白かった記事
2. 今号で「もう工夫欲しい」と思った記事
3. 今後取り上げて欲しいテーマ
4. 一言ご感想
5. 知るぽるとクイズの答(左記参照)
6. ご住所・お名前・電話番号
7. 「読者のおたよりコーナー」への掲載希望の有無/掲載するに当たり、本名ではなくペンネームをご希望の場合はペンネーム

※いただいた個人情報、プレゼントの発送、誌面への掲載に関してのご連絡についてはのみ、使用させていただきます。

◆宛先

- ・郵送 〒103-8660 東京都中央区日本橋本石町2-1-1日本銀行情報サービス局内 金融広報中央委員会「くらし塾 きんゆう塾」担当宛
- ・メール info@saveinfo.or.jp
- ・FAX 03-3510-1373 金融広報中央委員会「くらし塾 きんゆう塾」担当宛

知るぽるとクイズ

問 確定申告によって納める税金の種類は、次のどれでしょう？

答えの選択肢

- ①住民税
- ②所得税
- ③固定資産税
- ④相続税

(解答は次号に掲載します)

前号の答え

③汎用性

金融商品を選ぶ際の基準には「流動性(どのくらい自由に現金に換えられるか?)」、「収益性(どのくらいの運用利益が見込めるか?)」、「安全性(預けたお金が目減りしたり、予想外の損をする可能性はないか?)」の3つの基準があります。



「知るぽると」カフェ



CMポスター(電車広告用)



「知るぽると」広報委員長委嘱式



30秒CMより

テレビスポットCMを 中心とする 広報キャンペーンについて

金融広報中央委員会では、私どもの活動内容や当委員会愛称「知るぽると」などを、より多くの皆さまに知っていただくために、テレビCM放送を中心とした広報キャンペーンを展開しております。

主なキャンペーン内容は、①テレビスポットCM放送、②「知るぽると」広報委員長委嘱式の開催、③「知るぽるとカフェ」の開設、④CMポスターによる電車広告などです。

これらの広報キャンペーンを通じて、金融広報活動になじみの薄かった方々に、「生活に関連の深い金融・経済情報に関心を持ち、基本的な知識を身に付けることの大切さ」をお伝えすることができれば、と願っております。

キャンペーン内容は、次のとおりです。

◆比嘉愛未さんが等身大の言葉で語りかけるCMを制作

テレビスポットCMは、NHK朝の連続ドラマ「どんど晴れ」ヒロイン、比嘉愛未さんが出演しました。CMでは、比嘉さん自身の生活実感や日常生活風

の内容やCMについて記者発表を行いました。続いて、豊田会長より、比嘉さんに「知るぽると」広報委員長委嘱状をお渡しして、今後の金融広報活動に関するPRをお願いしました。

比嘉さんは、あいさつの中で、「一人暮らしを始め、二年半になりますが、改めて、お金の知識やお金の大切さを考える良い機会になりました。私もお金や暮らしに関する情報について、『知るぽると』のホームページで少しずつ勉強したいと思います」とお話しになり、広報委員長として、さっそく当委員会のPRをしていただきました。また、CM撮影の感想については、「ロケ地が大好きな海でしたので、とてもリラックスして撮影できました。素直な自分が出せたと感じます」と振り返っておられました。

◆「知るぽるとカフェ」、期間限定でオープン

仕事で忙しい方々に、私どもの広報活動をしつくりと紹介するのは、なかなか難しいことです。そこで、東京丸の内・大手町エリアでお仕事をされている方々を主な対象として、当委員会活動を紹介する情報発信拠点「知るぽるとカフェ」を東京・大手町にオープンしました。

期間中は、店内でのポスター展示、各種資料の配布などにより、当委員会活動やWebサイトを紹介しました。また、「知るぽると」PR用のオリ

景の中で、等身大の自然な目線から、暮らしとお金には深いかわりがあること、そして、お金について学ぶことの大切さに気づき、自ら「知るぽると」のホームページにアクセスする、という内容です。

比嘉さんの「気づき」を通して、視聴者の皆さまにも「お金」のことについて学ぶことの大切さが自然に伝わることを願って制作した作品です。

CMは、十一月二十八日から約二週間、三十秒・十五秒の二種類を、全国放送しました。皆さまはご覧になりましたか。

知るぽるとホームページでは、テレビで放送したCM作品を動画でご覧いただくことができます。しかも、ホームページ限定公開の六十秒CMや、比嘉さんのメッセージ、メイキングシーンなども公開しています。テレビCMをご覧になった方も、是非、ホームページをご覧ください。

◆比嘉愛未さんを「知るぽると」広報委員長に

CM放映に先立ち、当委員会事務局のある日本銀行本店の特設会場におきまして、「知るぽると」広報委員長委嘱式と広報キャンペーンの記者発表を行いました。委嘱式には、比嘉愛未さんにもご出席いただき、多くのマスコミ関係者の方々が取材に來られました。

委嘱式では、まず恵谷事務局長よりキャンペーン

ジナル和菓子を考案し、カフェの限定メニューとして提供しました。

◆CMポスターによる電車広告

東京の私鉄・地下鉄の一部路線や大阪の市営地下鉄全線に、CM冒頭シーンをイメージしたポスターを制作し、電車広告を行いました。掲出期間は、平成十九年十二月上旬～平成二十年一月下旬の約二ヶ月間です。

「金融教育フェスティバル」を開催します

当委員会では、関係団体のご協力をいただき「金融教育フェスティバル2008」を、日本銀行本店・本館(重要文化財)で開催します。(開催日：平成二十年一月二十六日(土))

このイベントでは、子どもから大人まで、幅広い年齢層の方々を対象とした、暮らしに身近なお金に関するさまざまなことを楽しみながら学んでいただける参加型プログラムをご用意しております。



春よ来い！ 力強い貯蓄運動が展開されました

制服を着た少年と少女がももにつかんでいる大きな2つの風船。一つの風船には、経済自立特別貯蓄運動の文字。もう一方の風船には日の丸が描かれ、そして、これらの風船の傍らには一羽の鳩が翼を羽ばたかせています。このポスターは、昭和27年の2月から3月にかけて行われた「経済自立特別貯蓄運動」に併せて、掲示されたものです。寒い季節にかかわらず、ポスターの中の少年と少女は、短パンとスカート。希望を胸に、上方を見上げている様子から、積極的に貯蓄運動に励んだ当時の姿を見て取ることができるようです。

新年を迎えて



金融広報中央委員会会長

豊田 武久

新年おめでとうございます。皆様お正月はいかがお過ごしになりましたでしょうか。平成も今年ではや二十年となり、十二支でいえば子(ね)、新しい循環に入る年です。

新年がいい年になるよう願うのは人間の常、各地の神社・仏閣は初詣客で賑わっていますが、その中で七福神巡りも静かなブームとなっているようです。健康増進のためのウォーキングも兼ねているのでしょう。

私もここ数年、東京の日本橋七福神巡りをしています。「日本橋七福会」という神主さんの会の主催で、毎年正月初めに開催され、歩いて二時間位の手頃のコースで、その中には安産祈願で有名な水天宮(七福神としては弁財天)学芸・財福の神を祀る)や富くじで名高い相森神社(恵比寿神)などが含まれています。縁起の異なる神々を一緒に取り込んで融合してしまうところが日本文化の特徴といえるでしょう。

当日は日本橋の旧市街を多くの人が道狭しと歩いています。普段あまり行

かないところを歩くと、新しい発見がたくさんありますし、面白そうな店に立ち寄る人もあって、一種の街おこし効果もあるようです。

翻って私たちを取り巻く現実の社会を見ますと、年金問題や多重債務問題などが大きな関心を呼び、各種金融商品の登場に伴いトラブルや犯罪が多発、また種々の格差是正が重要な政治課題となつていきます。一昔前に比べると今は格段に生きることが難しい時代になっているのは否定できません。こういう時代を逞しく生き抜くためには、各人が「くらし」や「きんゆう」を自らの問題として真剣に学ぶことが何よりも必要です。「知るぽると」はそうした向上心に富んだ方々の学習のお手伝いをしたいと考え、各地でいろいろの活動を展開してきます。こうした活動に関心を寄せていただくようになります。この冊子を刊行し、今回が第三号となります。皆様方の貴重なご意見を頂き、さらに誌面を充実させていきたいと考えています。

くらし塾 きんゆう塾 Vol.3

平成20年1月発行
編集・発行 金融広報中央委員会
編集協力・印刷 廣済堂
©金融広報中央委員会 禁無断転載

【編集後記】 明けましておめでとうございます。皆さまは昨年どのような出来事がありましたか？ 私事ですが長女が誕生し、子ども中心の生活に一変しました。今年は家族のために長期的な生活設計を考えています。将来について不透明な時代ですが、こんなときこそ羅針盤としての生活設計をお勧めします。皆さまも家族の幸せ計画を話し合ってみてはいかがでしょうか。